

News Release

朝日新聞に“日本自然保護協会との連携協定締結”について掲載されました

2024年12月3日付の朝日新聞に、当社と日本自然保護協会との連携協定締結についての記事が掲載されました。

当社グループは、事業を通じてサステナブルな社会構築を目指すとともに、森林保有や使用電力の再エネ化等、脱炭素や環境保全への取り組みを行っております。

本連携協定では、当社と日本自然保護協会が協力し、当社が保有する「JESCO 那智勝浦の保安林」や保安林を含む和歌山県那智勝浦地域において生物多様性保全活動に取り組み、ネイチャーポジティブを目指します。

センサーカメラの設置に
も那智勝浦町、JESCO提供



JESCO×日本自然保護協会が協定

センサーカメラが捉
えたニホンカモシカ



那智勝浦の森 豊かさもつと

情報通信設備や電気設

備など様々な社会インフ
ラの構築や維持管理を国
内外で展開するJESCO
Oホールディングス(東
京)は、那智勝浦町に所
有する山林を舞台に、生
物多様性の回復につな

る「ネイチャーポジティ
ブ」(自然再興)を日本
自然保護協会(同)と推
し進める。

11月26日、両者が連携
協定を結んだと発表し
た。JESCOの創業者
・松本俊洋氏(故人)
は、奈良県吉野町の材木
商出身。企業としても緑
地管理による社会貢献活
動に取り組んでいる。
奈良県吉野郡や、那智
勝浦町で森林を保有・整
備し、温室効果ガスの
吸収や水源確保、生態
系保全などに努めてい
る。

那智勝浦町市野々の森
林は、世界遺産「紀伊山
地の霊場と参詣道」を構
成する「那智の滝」の近
くの約16・7haの山林
で、2017年に取得し
た。社員がセンサーカメ
ラを設置して生物の生息
状況を調べたところ、国

の特別天然記念物のニホ
ンカモシカや、リス、ニ
ホンザルなどが確認され
たという。

日本自然保護協会は、
長年培った知見を生かし
て森林や生物多様性の評
価を行うほか、現状評価
の結果に基づいて、その
地域に合ったネイチャー
ポジティブにつながる施
策をJESCOとともに
検討、実行する方針とい
う。

JESCOによると、
「ネイチャーポジティブ
の取り組みは、所有して
いる森林に限らない」と
して、那智勝浦町も含め
た3者に広めたいとして
いる。また、森林保全だ
けでなく、熊野那智大社
の例大祭「那智の火祭り」
などへの社員の参加
など、地域との人的交流
も検討しているという。
(菊地洋行)

[承諾番号 24-3119]

※朝日新聞社に無断で転載することを禁じる